

コロナ下における保育と子どもの育ちを考える I

—予備調査から明らかになったこと—

企画者	： 課題研究委員会
趣旨説明・司会	： 佐々木 晃（鳴門教育大学附属幼稚園・課題研究委員会委員長）
話題提供	： 新井美保子（愛知教育大学・課題研究委員）
	三宅 茂夫（神戸女子大学・課題研究委員）
	花輪 充（東京家政大学・課題研究委員）
	： 西山 修（岡山大学・課題研究委員）
指定討論者	： 戸田 雅美（東京家政大学・日本保育学会副会長）

1 企画主旨

第74回大会において、新型コロナウイルス下における保育実践の工夫と課題についての質的研究の成果を発表した。

活発な議論の中では、日本保育学会としての社会貢献と情報発信を期待する趣旨の意見もいただいた。

そこで、課題研究委員会では「コロナ下における保育と子どもの育ちに関する調査」を実施し、子どもや保育実践において将来に渡って懸念される問題や解決・改善方法、実践により定着してきた事項等について明らかにし、保育実践や運営の改善に生かす方略を提案しようと考えた。

今回は予備調査結果についての報告を中心に議論を進める。調査結果は保育学会で共有し、各委員会と連携した取り組みや会員による研究の発展に繋がることを期待している。